

# 北斗だより

令和7年度 第7号  
(10月1日発行)  
愛媛県立今治北高等学校

「自分のために、みんなのために、今できること ～global citizens として～」

進学課長 越智 祐治

2019年12月中国の武漢市で確認された原因不明の肺炎は、その後 COVID-19 として人類史上例を見ないパンデミックを引き起こしました。世界中で非常に多くの方が亡くなったことに加え、国内でも行動制限がなされたり、運動会や修学旅行、部活動の大会等学校内外の行事が自粛されたりした年もありました。あの頃は COVID-19 が「人類共通の敵」であり、その共通の敵に打ち勝って一時も早く「日常を取り戻す」ために、様々な国や企業等が利益を度外視して協力をしました。COVID-19 が5類感染症移行にしてから、はや2年5ヶ月が経とうとしていますが、5類感染症に移行したものの、インフルエンザと同様感染力が強いため、現在も感染者が出てるのが現状です。私自身は県外の大学や学校の方と面会する機会が多く、自分自身が感染したり、家族や学校で感染を広めたりすることのないよう、現在も基本マスクを着用しています。

現在は国内外の人の往来が活発となり、逆にオーバーツーリズムが問題となるほどです。世界に目を向けてみると、コロナ禍では一つになっていたのに、共通の敵がいなくなったとたんに、皮肉なことではありますが、世界各地で「自国ファースト」を掲げた争いがいくつも起こっています。世界が非常に危険な方向に進んでいることに危機感を禁じ得ません。

普通科の皆さんは、「総合的な探究の時間」に、特に2年生から SDGs の17の目標から1つを選んで探究活動を行っています。2030年までに世界が達成すべき目標なのですが、期限まであと4年3ヶ月ほどです。ここ数年、「観測史上最大の」とか、「今まで経験したことのない」とかいう表現をニュースで聞くことが増えてきました。今年の各地での豪雨や干ばつも、気候変動の大きな波が押し寄せている影響ではないでしょうか。世界で起こっているこれらの紛争や気候変動も、決して「対岸の火事」ではありません。地球に暮らす我々に起こっている、あるいは起こりつつある「共通の問題」なのです。

international と global という英単語があります。Collins English Dictionary によると international は between or involving different countries (異国間の) という意味で、そこには border (国境) がありますが、global は You can use “global” to describe something that happens in all parts of the world or affects all parts of the world. (世界のあらゆる地域で起こる、あるいは世界のあらゆる地域に影響を与えるものを説明するのに global を使う) とあり、そこには border の感覚はありません。また、“Think globally, act locally.” という言葉があります。個人の力は小さいかもしれませんが、“global citizens” (地球市民) として、地球に暮らす82億を超える人類それぞれの積み重ねが、大きな結果を生むことを願い、世界が平和になるように、気候変動を進めないように、地球規模で考えて、自分の身の回りでできることからやってみませんか。そういった考え方や取組が、もしかしたら自分の将来の進路を考えるきっかけになったり、自分のライフワークになったりするかもしれませんね。

「何か人の役に立つことをしたい」と考える生徒が多い、今治北高校の皆さんの「気づき」に大いに期待しています。

※お気付きの点や、御意見・御質問などありましたら、下に記入の上、お子さんを通じて担任まで御提出ください。

今治北高校の日々の様子をホームページに掲載しています。「今北日記」「生徒の活動」「部活動」など、ぜひ御覧ください。

今治北高等学校 学校公式サイト <https://imabarikita-h.esnet.ed.jp>

----- 切 り 取 り -----  
\_\_\_\_年 \_\_\_\_組 名前\_\_\_\_\_